

## 会長挨拶



日本顎口腔機能学会 会長  
津賀 一弘  
(広島大学大学院医系科学研究科先端歯科補綴学 教授)

本会は、1982年に下顎運動機能とEMG研究会を前身として発足しました。当初は、日本ME学会専門別研究会でした。その後、1986年に顎口腔機能研究会として、1993年には日本顎口腔機能学会となり、今日に至ります。

栄養・水分・酸素を摂る、意思を伝える、身を守るなど、顎口腔系の諸機能は、至極重要であるとともに複雑精緻です。本会は、基礎から臨床まで、歯学、医学、工学、心理学など、多様な専門家が学際的な活動を続け、多くの実績を残してきました。

研究の芽を育て、その芽から花を咲かせて真実を追求し、将来の人類社会に貢献できるよう、研究者お互いを甘やかすことなく、国内異例の学術大会発表15分・質疑応答15分をスタンダードとしています。各分野の強者専門家たちが喧喧囂囂侃侃諤諤とディスカッションします。顎運動機能とEMG研究会の発足当初から綿々と引き継がれている伝統です。

年2回の学術大会に加えて、若手研究者の育成のため、隔年の夏休み期間を利用して「顎口腔機能セミナー」を開催しています。座学と研究実技ワークショップをミックスし、計画立案から実際の測定手技の習得、結果の分析と発表方法までを老若男女で学びます。春と秋の学術大会では若手研究者の投票による大会優秀賞を設けるなど、次世代の育成に中堅から大ベテランまでが大きな熱意を持っている素晴らしい学会です。

近年、口腔健康の維持増進の意識が高まり、臨床で機能を評価可能な検査法の開発が少し注目されています。しかしその科学的根拠を含めて未解決の真理はまだ途方もなく大きく、in vitro, in vivo, in situ, in silicoなど多彩な分野の研究が本会の活動を充実・発展させることは間違いありません。地球規模での持続可能な発展へ大きく貢献できるよう、仲良く尽力してまいりましょう。皆様、ご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年4月